

New N o g a t a

2023、12、12

直方ミニバスケットボールクラブだより

共育コラム

子どもの成長につながる経験を大切に



大会に向けて調整がうまくいっている子と、かぜやけが等で体調を崩し、チームの練習参加がとんでしまった子がいます。全員が万全な状態で臨むことは、なかなか至難の業ですね。対処のしかたや個々の対応力には違いがあり、メンバー全員の体調維持の難しさは、指導する私たちもですが、子どもたち自身が感じていると思います。

今はもう、大会参加に向けた活動は、かなりの部分を、キャプテン、副キャプテンが中心となり6年生どうしで話し合っ進めています。メンバーやチームプレーの確認が主な内容になっていますので、互いの動向（練習への参加）の確認が常に必要で、その重要さがわかってきています。

個々のなかで調整がうまくいくためには、自律の力（自らをコントロールする、調整する力）と自尊の力（自分を大切にす、自信をもつ力）が必要です。そのことは子どもたちにも話しており、先々「自立」につながります。それが、思春期を乗り越えおとなへと成長していく土台となります。

ここがうまくいかないと、自らチャンスを逃したり、自分の可能性をつぶしたり、信頼をなくしたり…、子どもが成長していくうえで大きなマイナス要素となってしまいます。とはいえ一度や二度の失敗は、成長段階の子どもたちですから、ある意味必要な面もあります。そのときの悔しさをバネに次への奮起の材料とすることもあるでしょう。しかし、その失敗が度重なると、本人の自尊感情が下がり、「また失敗したらどうしよう。どうせ自分はだめだ。自分にはできない」など、自分を過小評価し、チャレンジすることが怖くなり、自信をなくし、やる気を失うことにもなりかねません。

子どもが子ども時代に身につけておいた方がいい力（経験）が何か、この子にとって何が大切か、おとなとしてそこを見極めながら、そして子ども自身の意見を聴きながら、成長をサポートしていくことが大切ですね。

同年齢、同学年でも、子ども一人一人発達段階には違いがありますから、活動への強い意欲（気持ち）が湧くまでは、刺激はしながらも、待ってあげた方がいいと思っています。本人がその気になったときには、その子の意志を尊重し、やりたいことを力いっぱいやれる環境を整えることに協力してあげることで、いっきに伸び始めます。それはバスケットだけのことでなく、本人が興味関心のあるものや学習などでも言えることで、うまくリードすることで生活習慣の改善などにもつながります。

その際、「刺激しながらも」というところは大切に、何もせずじっとしてそんな気持ちが湧いてくるわけではありません。しかし、おとなが出過ぎて引っ張り上げることになると逆効果になることもあります。適度な距離感をもって刺激することが大事で、そのことによって「やってみたい」「やりたい」と欲が出て自覚が芽生えると子どもは自ら成長しはじめます。その意味でも、おとなの「見守り、励まし、応援」というのは、とても大切です。

